

北海道豊浦町新規就農の心得

～ 農業に必要な「5つのチカラ」と「5つの条件」～

令和元年 11 月

北海道豊浦町

1. はじめに

みなさんは豊浦町でどのような新規就農をイメージしているのでしょうか。

「田舎でのんびりと農的暮らしをしたい」「土いじりをしながら自給自足の生活をしたい」「スローライフにあこがれて」…。そんな生活を目指し、豊浦町への移住をご検討いただけるのであれば、こんなに嬉しいことはありません。

豊浦町は海があり、山があり、川があり、自然豊かな素晴らしい町です。札幌や新千歳空港からも近く、「ほどの良い田舎」ですので、農的暮らしを目指す方には最適な町といえるでしょう。

そういった方々には農的くらしを楽しめる移住をおすすめしております。

本書は豊浦町で「農的暮らし」ではなく「農業」をやりたいとお考えのみなさんのために作成したものです。

農業は「業」の字が示すとおり、職業です。農業によって生活していくためのお金を稼がなくてはなりません。

当然、お金を稼ぐということは甘い考えではできません。ましてや農業は栽培、消費ニーズの把握、営業、販路確保、収支を把握しながらの経営など、自分で全てやらなければならないのです。（農業法人は別として、ですが）

映画でいえば、監督、脚本、プロデュース、主演、助演、脇役、撮影、営業、資金調達、雑用、次回作の準備...全てを自分がやるということです。

そんな大変なことをみなさんはやろうとしているのです！

本気で農業を目指すみなさんに対しては、新規就農者受入指導農家（以下、「親方」といいます）や豊浦町を始め、関係者が一丸となって全力でサポートします。

本書を熟読していただき、豊浦町の農業の担い手となるため、頑張ってください！

2. 農業に必要な「5つのチカラ」と「5つの条件」

農業を職業として選んだみなさんは「こんな農業をしたい!」という夢をお持ちでしょう。

でもちょっと待ってください。その夢は農業の実態を知った上でのものなのではないでしょうか?

農業を始めるにあたっては、以下の5つの「チカラ」が必要です。

- ① 理解力
- ② 労働力
- ③ 体力
- ④ 信頼力
- ⑤ 想像力

これらの「チカラ」について触れながら、**豊浦町で新規就農研修を受けるための「5つの条件」**についてもご説明していきます。

① 理解力について

これは**農業の実態について、みなさんが理解しているかどうか? 家族や親戚の理解が得られているか?**ということです。農業を志し、就農研修に入る前に確認しておかなければいけないことです。

特に、家族や親戚の理解については重要です。豊浦町の公営住宅に入居する場合や、資金を借りる場合などに保証人が必要です。あらかじめ家族や親戚の理解を得ることで、手続きをスムーズに行うことが可能です。

また、研修を開始した後、親方の指導を理解できるか?あるいは就農後でも周囲のアドバイスを理解して受け入れることができるか?という意味もあります。

農業の実態については②③④と関連しますので、次に進みましょう。

② 労働力について

農的暮らしはともかく、農業は1人でできるものではありません。一緒に農業に勤しむパートナー(配偶者や親族、志を同じくする仲間など)が必要です。

最初に触れましたが、農業は全て自分でやらなければなりません。ですが、それを1人でやるのは大変なので、**労働力としてパートナーが必要**なのです。

また、労働力としてはもちろんですが、お互いの心の支えとなるという意味でもとても重要なことです。

もし、お1人での就農をお考えの場合はパートナーを得られてからもう一度ご相談ください。「就農時にパートナーがいること」、これが豊浦町での新規就農研修受入の条件の1つです。(お1人の場合は雇用就農という考え方もあります。別途ご相談ください。)

③ 体力について

体力については3つに分けられます。農業は会社勤めと違って決まった時間に働いて帰るというわけにはいきません。農繁期は朝早くから夜遅くまで作業することも多く、相応の「**身体的体力**」が必要です。年齢的に言えば、「就農時に50歳以下であること」が新規就農研修受入の2つ目の条件です。

さらに、1日の研修時間は7時間45分と決まっていますが、農繁期はそうも言われてられません。通常の研修時間外でも自主的に研修を行うことで、より深い技術や知識を身に着けることができます。そういった体力も必要となります。

また、みなさんの「農業における夢」の実現には確固たる「覚悟」が不可欠です。苦勞を受け入れる覚悟、あるいは立ち向かう覚悟。時には理不尽だと思ふようなことがあるかもしれません。自分の考えを曲げねばならないこともあるかもしれません。そういったことに耐えられる「**精神的体力**」、気力、柔軟な思考が必要です。

さらに、農業を新規に始めるにあたっては初期投資が必要です。例えばハウス栽培の場合、当然ハウスが必要ですが、新品の場合1棟あたり120~200万円程度の経費がかかります。通常、家族が暮らしていくためには3~4棟のハウスを整備しなければなりません。

就農後の所得としては、豊浦町の場合、いわゆる担い手と呼ばれる「認定農業者」の目標年間農業所得は440万円です。新規就農者の場合は就農後5年間で1/2、220万円の所得が目標となっています。

仮に、220万円の所得があるとして、みなさんの家族構成で生活ができるでしょうか？現在の生活レベルを落とすことが可能でしょうか？お子さんがいる場合、教育費は確保できるでしょうか？

特に就農当初はまだまだ技術が未熟なこともあり、所得はかなり少なく、と

でも苦勞することでしょう。初期投資費用や経営が軌道に乗るまで生活できる「**経済的体力**」がみなさんにあるでしょうか？「**500万円程度の自己資金を確保していること**」が新規就農研修受入の3つ目の条件となっています。

④ 信頼力について

信頼力については2種類あります。1つ目が**みなさんから周囲に対する信頼、あるいは敬意**と言い換えてもいいでしょう。2つ目が**周囲からみなさんに対する信頼、評価**とも言えるものです。

みなさんは豊浦町で何十年も農業を実践してきたベテラン農家である親方のもつて、3年間の研修を行うこととなりますが、親方は自分の経営がある中で「地域の担い手を育てたい！」という想いだけで研修生のみなさんを受け入れています。

正直言って、親方も自分の営農だけで手いっぱいです。そんな中でも、何とか時間をつくってみなさんの指導を行っています。特に家族経営の親方の場合、常に限られた人手の中で切り盛りしている状態なのです。

親方だって食べていかなければいけません。そんな時、優先すべきは当然親方の仕事です。それでも地域のため、ということでみなさんを受け入れ、指導してくれているのです。

親方からの研修指導を「やってもらって当たり前」という考え方では絶対にダメです。親方に対する**感謝の気持ち、リスペクトが重要**です！！

親方は非常に責任感の強い方々です。ある親方は、自分のところで研修して独立した新規就農者のことを「娘だと思っている」と公言しているくらいです。

みなさんの研修が修了し、独立した後も、何かとみなさんの力になってくれる頼れる存在、それが親方なのです。

みなさんは親方に「あいつは俺の息子、娘だ！」と言われるくらいの信頼関係を築くことができるのでしょうか？そのために必要なことは何でしょうか？

みなさんには「こんな農業をしたい！」という夢があると思います。

しかし、少なくとも研修中は親方の指導に従って作業しなければなりません。前述のとおり、親方は自分の経営の一部を研修生のみなさんのために開放しているのです。

それは本来なら親方の所得となる部分です。そのやり方をみなさんの考え方で変えるということは絶対にあり得ません。

チャレンジしたい自分の考え、やり方は就農後に試せばよいのです。まずは基本となる親方の技術、考え方を研修中にできるだけ吸収することに全力を注ぎましょう。

親方の技術や考え方には敬意を払うこと、感謝の気持ちを言葉・態度で示すこと、これが大事なのです。「ありがとうございます」の一言を忘れずに！

一方、周囲からみなさんに対する信頼、評価についてはどうでしょうか。

田舎は人間関係が密であり、自分だけで生きていく「自給自足」という自己中心的な考えでは生活が成り立ちません。

地域社会にしっかりと入って、皆と一緒に生きていくという考えでなければいけません。

例えば農業には共同作業がつきものですし、地域のお祭りや自治会活動などもあります。地域独特の「ローカルルール」もあるでしょう。みなさんはそれを受け入れることができるでしょうか？

もし、みなさんが「俺が、私が古い地域の考え方、農業を変えてやる！」という考えをお持ちであれば、それは胸の奥深くにそっとしまっておきましょう。

豊浦町での新規就農者に求められているのは「地域の担い手として、みんなと一緒に頑張る」ことであり、この考えを持っていることが新規就農研修受入の4つ目の条件です。「自分の考えを押し付け、地域をかき回す移住者」ではないのです。

では、周囲から信頼を得る、評価を得るにはどうしたら良いのでしょうか？

町外から移住してきたみなさんのことは、みなさんが想像する以上に周囲から見られています。

常に周囲に見られていることを意識して行動することが重要ですが、まずは前述のとおり親方に敬意を払い、信頼関係を築き上げることです。

親方から周囲に対してみなさんの高評価の言葉が出れば、自然と周囲もみなさんに対して信頼を寄せてくれるようになるでしょう。

そうした後に、みなさんがやりたかったことを周囲の人たちに相談しながらやれば良いのです。

信頼関係が築けているならば、周囲の人たちもみなさんの声に耳を傾けてくれることでしょう。築けていないなら周囲から見たみなさんは「自分の考えを押し付け、地域をかき回す移住者」でしかありません。ご注意を！

さて、ここで1つみなさんへ就農後のアドバイスを。

人の第一印象は約 6 秒で決まってしまうとされています。その構成は以下のとおりです。

- ①視覚情報（55%）：見た目、表情、しぐさ、視線
- ②聴覚情報（38%）：声の質、速さ、大きさ、区長
- ③言語情報（7%）：話の内容、言葉そのものの意味

つまりは見た目、「身だしなみ」によるところが大きいのです。身だしなみとは「身のまわりについての心がけ。頭髪や衣服などを整え、言葉や態度をきちんとすること」であり、社会人としての一般的なマナーです。

さて、農業者にとっての「身だしなみ」とは何でしょうか。服装？髪型？ナチュラルメイク？いえいえ、農作業に追われる毎日でそんなところに気をつかう余裕はありませんね。農業者にとっての「身だしなみ」とは「自分の農地の環境整備」なのです！

ボウボウに伸びた草や、ほったらかしになったままの農機具...そんな農地を見て、そこで就農した人を周囲はどう評価するのでしょうか？

いくらみなさんが文字通り一所懸命に農業に打ち込んでいたとしても、農地の環境整備ができていなければ「自己管理ができていない、だらしないヤツだ！」というレッテルが貼られてしまいます。そして一度貼られてしまったレッテルを剥がすのは至難の業です。

また、周辺農地への影響も考えられ、メリットは全くありません。どんなに忙しくても、草刈りなどの農地の環境整備は最優先で行うようにしましょう！

⑤ 想像力について

新規就農にあたっては、国や町の支援が充実しています。ですが、補助金をあてにした研修や就農を考えているようでは全くお話になりません。

就農当初は仕方ない部分もありますが、少なくとも就農 3 年後には補助金なしでも食べていける計画を立てなければなりません。

そのためには、

- ①どんな作物をつくるか
- ②どれだけの量、面積をつくるか
- ③どれだけの経費がかかるか
- ④どこに売るか
- ⑤どれくらいで売れるか

を考える必要があります。

これは研修に入る前にシミュレーションしなければいけません。これを考えていない方は、就農研修生として受け入れることはできません。「**将来のビジョンを持っていること**」が就農研修受入の5つ目の条件です。また、就農後も常に考えていかなければいけない課題です。

親方や普及センター、農協に相談し考えていきましょう。

また、国や町の補助金を受けた時点でみなさんには「責任」が生じます。

例えば国の支援は「農業次世代人材投資事業」という名前です。名前のとおり投資なのです。投資とは、将来の利益のために資金を出すことです。そして、この場合の「利益」とは、みなさんが農業者として地域農業の担い手となり、地域を盛り上げていくことです。

さらに言えば、補助金の財源は税金です。国民、町民からの税金なのです。

みなさんが受けている補助金の後ろにはどういう仕組みがあるのか、想像してください。みなさんには担い手となる大きな責任があることが分かるはずです。

想像力とは、経験に意味を与え、知識に理解を提供するものです。

みなさんが目指す農業、そのために研修や営農で得た経験、知識を真に自らのものとするために、常に想像力を働かせましょう！

3. 新規就農研修中、就農後の失敗例について

ここで、実際に豊浦町での新規就農研修中や就農後に失敗してしまった例をご紹介します。

ケース1 地域からの信頼を得られなかった失敗例

- ・ 20歳代、男性、既婚、子どもなし
- ・ 男性のみ2年間の研修
- ・ 研修中は明るい人柄で、技術は未熟であるものの、地域の担い手として期待されていた
- ・ いちごハウス4棟で就農
- ・ 就農後、栽培技術が未熟であるにもかかわらず、親方や周囲の農家、農業改良普及センターからのアドバイスを全く聞かない
- ・ 自分の農地の環境整備もせず、周囲からの信頼を失い、孤立していった
- ・ 結局、いちご栽培がうまくいかず経営が立ち行かなくなり、3年後に離農、町から借り入れた研修資金（180万円）も全額一括返還となった

これは、研修中は良かったのですが、就農後に親方や周囲の話しを全く聞かず、独自の考え方や方法で突き進み、信頼力が低下し、失敗してしまったケースです。

彼は研修中だけでなく、研修後も親方や周囲のアドバイスを聞きながら、信頼関係を強固なものとし、少しずつ自分のやり方を見出していくべきでした。

ケース2 理解が足りなかった、得られなかった失敗例

- ・ 30歳代、男性、既婚、子どもあり
- ・ 男性のみ研修
- ・ 研修に入ったものの、考えていた以上に農作業がキツイ、こんなはずでは...という気持ちが強くなっていく
- ・ 農業をやるということに対して奥さんや親族の理解を得られていなかった
- ・ 2カ月で研修中止となり、就農をあきらめた

このケースは農業の実態に対する理解が不足していたことが原因です。

また、家族の理解も得られていなかったため、協力体制が全く築けていませんでした。仮に就農できたとしても、そんな状態であれば遅かれ早かれ離農することになったでしょう。

彼は研修に入る前に農業の実態を把握し、しっかりと家族で話し合い、理解を得るべきでした。

ケース3 親方との相互信頼関係を築けなかった失敗例

- ・30歳代、男性、既婚、子どもなし
- ・夫婦で就農するため、研修開始
- ・自分のやりたい農業のビジョンが強く、栽培管理方法について親方の指示を守らない
- ・お互いに信頼関係が築けず、ちょっとしたことでも意見が衝突する状態
- ・結局、親方の体調不良も重なり、2カ月で研修中止となった

このケースも信頼力の欠如が原因です。一概に研修生に原因があるとは言いきれるものではありませんが、親方へのリスペクトが必要であることは前述のとおりです。

彼らは親方からの指示を守ることで、親方との信頼関係を築くべきでした。また、事態が深刻化する前に町や関係機関などに相談するべきでした。

いかがでしょうか。これらのケースを反面教師として、研修や営農の参考としていただければ幸いです。

4. おわりに

整理すると、

- ① 理解力
- ② 労働力
- ③ 体力
- ④ 信頼力
- ⑤ 想像力

という「5つのチカラ」を持っていること。そして、

- ① 就農時にパートナーがいること
- ② 就農時に50歳以下であること
- ③ 500万円程度の自己資金を確保していること
- ④ 地域の担い手として、みんなと一緒に頑張る考えを持っていること
- ⑤ 将来のビジョンを持っていること

という「5つの条件」を満たしていること。

これが豊浦町に新規就農するにあたって必要となります。

夢は必要です。これは間違いありません。

ですが、夢を現実のものとするためには、しっかりとした技術が必要であり、クリアすべきハードルがいくつもあるのです。

本書を読み終えて、まだ農業への夢を持ち続けているあなた。

夢を実現するため、私たちと一緒に日々努力を重ねていきましょう！

北海道豊浦町新規就農の心得 同意書

私は、地域農業の担い手となるため、「北海道豊浦町新規就農の心得」に則り、新規就農研修の実施及び営農を継続していくことに同意します。

令和 年 月 日

氏名 _____ 印

氏名 _____ 印

作 成	豊浦町産業観光課農林係
	豊浦町農業委員会事務局
	豊浦町地方創生推進室地方創生推進係
第1版	平成30年10月5日
第2版	令和元年11月20日